

1. 調査報告概要表

作成日 2009年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1070100902
法人名	医療法人 生方会
事業所名	グループホーム「陽だまり」
所在地	群馬県前橋市表町2-27-20 (電話) 027-225-1165

評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町 1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成 21年 10月 21日

【情報提供票より】(21年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 10年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	人	常勤 専任 兼務 人, 非常勤 人, 常勤換算	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建て 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,000~123,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	円		

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	7名
要介護1	3名	要介護2	2名	
要介護3	1名	要介護4	3名	
要介護5	0名	要支援2	0名	
年齢	平均 85.6歳	最低 80歳	最高 96歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	生方病院 吉野医院 布川歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域の人達のニーズが施設の基となっている。地域の人達の協力的な姿勢からも施設が地域に育てられていることが分かる。施設の整備に地域の人達の気持ちが見られている。施設の木を植えてくれたり、祭りなど利用者の行事参加への心配りなど地域の人達の思いが表れている。また既存の建物を改修した部屋なので同一ではない。そのことが個性の表出になっている。一人ひとりの個性に合わせた生活のリズムが生まれている。個別ケアの基本があり支援されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価において改善課題は無かった。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の目的や意義について職員は理解している。今回の自己評価は全員で取り組み管理者が取りまとめ仕上げた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 施設からは状況の報告がなされている。利用者家族には全家族に参加の案内をしている。地域の代表者から行事などの報告がある。行政からはインフルエンザ等の説明があった。家族からも意見を聞いている。会議の議事録は2ヶ月に一度家族に送られている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族よりメールによる希望などが寄せられている。法人が他にも施設を持っているのでそちらの方に連絡をしてくる家族もある。それらの意見などに対して説明や報告を行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会の行事(廃品回収、お祭り、害虫駆除)には以前より参加協力をしている。法人主催の行事もあり地域の人達との交流の機会となっている。保育園の運動会に参加し、また近くの交番との付き合いも出来ている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆずり合い、信じ合い、助け合う」が事業所理念として掲げられている。理念は病院利用者や職員などの関係者から応募してもらい作り上げられている。	○	グループホームが地域密着型サービスになった後も理念の変更はされていない。実際、地域との関係は深く、交流もあるが、言語化することにより地域との関係をより意識し、地域にもより理解してもらえと思われるので「地域」を意識した理念の検討をお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は室内の見えやすいところに額に入れて掲げられている。職員も開設当初よりの職員が数人いて開所時からの施設の理念を継承している。また管理者・職員は理念を日々会議やミーティングの時に触れ実践に向けて振り返り共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の廃品回収に協力している。地域の祭りなどにも参加し交流を行っている。理事長が地域住民であり必要な情報は知らせてくれる。交番との交流もあり施設を地域に知ってもらう努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は職員全員で取り組んでいる。管理者は職員の意見を取りまとめ作成した。作成したものを職員に見てもらい共有している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度定期的に開催されている。市職員、自治会長、家族代表、ボランティア代表、利用者などが参加している。利用者は参加しない時もある。施設からは状況報告等がされている。家族には全員に声を掛けて参加をお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の情報交換会に参加している。また電話や利用者と時には一緒に出向き相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との関係を密にするために施設は努力を行っている。2ヶ月ごとに運営推進会議の議事録を家族に送っている。緊急の事態に対しては当日の勤務者が家族に連絡をしている。職員の異動などは運営推進会議で報告をしている。家族の希望を取り入れ献立なども送り個々に合わせた対応をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は家族から意見を引き出す努力を行っている。常に言いやすいように声かけを行っている。就寝時間の事などの情報や献立など家族からの意見を聞き運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の異動が利用者にとってダメージを与える事を理解している。異動は最小限にと努めている。退職者が出た時は入職者と勤務を重ねるなど工夫をしている。新入職員には日勤・夜勤とも先輩職員に付いて業務を覚えてもらい、利用者への配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修、外部研修など管理者は研修を通して職員の育成を行っている。研修参加者は内容を報告し職員間で共有している。資格取得に対しても個人の希望があれば融通をして協力している。法人研修、新任研修、市の研修など職員は参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会に加入している。ブロック研修にも積極的に参加している。交換研修、グループホーム大会など地域のグループホームとの関係も持っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者は本人に納得してもらってから入所に結びつける努力を行っている。施設職員が出向き入所に結びつくこともある。入所して間もない人には家族に電話をしたり、面会などお願いして不安感を取り除くよう協力を依頼したりしている。家族の宿泊も出来る。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	業務を作業にしないように管理者は個人個人の生活のリズムを大切に支援を心がけている。利用者との喜怒哀楽を共にしながら職員は学んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から意向の確認を行っている。また家族からの情報を参考にして確認している。言葉に出せない人からは表情の変化や体調、日常生活の中の動きなどふれあう時間を多くとり意向の汲み取りを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者に対して職員の担当制がとられている。担当者は本人や家族からの意向などを聞き、ケアマネジャーと話し合い計画に結び付けている。計画作成に家族も参加してもらう事もある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	生活援助計画は3ヶ月に一度見直されている。月に一度のカンファレンスや随時見直しはされているがモニタリングについては行われていない。	○	生活援助計画が3ヶ月毎に行われているが月に一度のモニタリングを行い計画の変更に関わり結んでもらいたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診の支援、買い物、リハビリなど事業所の多機能性を生かした支援がされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は家族の希望が優先される。協力医については話し合いで変更も出来る。2週間に一度の往診がある。また必要時には歯科・精神科の往診もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に家族に説明を行っている。家族の意向の確認も行っている。管理者は家族の希望を重視した支援を行いたいと考えている。24時間看護との協力体制がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議やミーティングの時には個人名はイニシャルを用いている。家族の立場に立った気持ちを大切にして会話をしている。書類は目に見えないところに保管されている。職員は入職時法人との間に誓約書を交わしている。	○	管理者の家族や利用者の立場に立った会話や気持ちを大切にす支援を、スタッフも同様に言葉かけ等を含め、共有した支援を希望したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな食事などの時間に決まりはあるが個々のリズムが大切にされている。食事も1時間まではとっておき、補食が用意されている。就寝時間も一人ひとりに合わせている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	グループホームの食事は法人の厨房で作られている。利用者に手作りのものを味わってもらえるようにおやつ作りを工夫している。お焼き、ホットケーキなど楽しんでもらっている。2年前より職員は利用者と食事を共にしているがお弁当を食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合できめてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的には週2回だが希望により毎日の入浴が出来る。3名が毎日入浴をしている。入浴できなかった人には清拭などの対応がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々に役割があり生活に張りが出てきている。タオルたたみ、洗剤の分割、雑巾縫い、靴下に名前付け、買い物、祭り参加、納涼祭など楽しみごとがある。気晴らしとして誕生会での希望食、ドライブ、行事、保育園児との運動会などが支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	駐車場を用いての日向ぼっこ、庭でのおやつ、買い物、散歩など外出の支援がされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵を掛けることの弊害を理解している。鍵は掛けられていない。職員は見守りを行い利用者の自由な行動を自然に見守っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人との合同訓練と自主訓練を行っている。法人と一緒に3ヶ月に1度、消火・避難・総合訓練を行っている。夜間想定も行っている。自治会に協力依頼を行っている。グループホーム独自では年2回ホーム清掃の時に合わせて自主訓練を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量に対しては記録があるが、水分に対しては全員の記録ではなく、看護の観点から記載が必要な人のみの記録になっている。	○	食事と水分量の記録をつけることにより体調の変化が読み取れたりする。毎日の食事と水分量の把握により受診をした時の適切な病気の診断にも役立つので記録をお願いしたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには椅子が随所に置かれ会話の場所になっている。また観葉植物が気持ちを和ませている。絵画や写真なども飾られ居心地の良い空間が工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の馴染みの物が持ち込まれ、個性ある個室になっている。家具、テレビ、人形、お花、写真、籐の椅子など持ち込まれている。		